

次の100年へ繋がる浜松市 未来へ輝く「やらまいかスピリッツ！」 ～NEXT100～

浜松市消防局



平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震におきまして、不幸にして亡くなられた皆様に対しまして、心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

浜松市の概要

浜松市は、静岡県の西部に位置し、東京、大阪の2大都市のほぼ中間（約250～300km）にあり、太平洋ベルト地帯においてもその中央部に位置し、中部経済圏の中心である名古屋へ約109km、県都静岡市へ約77kmの近距離にあります。

また、東海道新幹線、東海道本線、東名高速自動車道、国道1号、遠州鉄道（西鹿島線）及び建設中の新東名高速自動車道など、交通網も充実しています。

平成17年7月1日に旧浜松市をはじめとした12市町村（3市8町1村）が合併し、市域は、東西約52km、南北約73km、総面積は1,558km²

と広大な浜松市が誕生しました。

平成19年4月1日には政令指定都市となり、先の地理的状況から、静岡県西部地域のみならず、愛知県東部地域、長野県南部地域による三遠南信広域交流圏での地域間の連携は緊密化を増しており、益々の発展が期待されています。

音楽のまち「はままつ」

浜松市では、まちと市民が一体となって音楽のまちづくりに取り組んでいます。





浜松国際ピアノコンクールなどの世界的なコンクールを通して、音楽文化を世界に発信するとともに、音楽を通じた国際交流として、ワルシャワ市やロチェスター市と音楽文化友好交流協定を結んでいるほか、アクトシティ浜松などの音楽文化施設では、様々なコンサートやコンクール、世界に羽ばたく演奏家の育成、市民向けの音楽講座などを開催しています。

浜松駅前では、週末になるとプロムナードコンサートやガーデンコンサートといった市民主体の音楽イベントが開催されており、子供のころから音楽に触れる環境が整っている本市から、世界で活躍する音楽家が何人も育っています。

ものづくりのまち「はままつ」

浜松市は、チャレンジ精神旺盛なこの地域特有の気質「やらまいか精神」によって、ヤマハの創業者である山葉寅楠氏やホンダの創業者である本田宗一郎氏など、世界に誇る多くの起業家を輩出した都市でもあります。

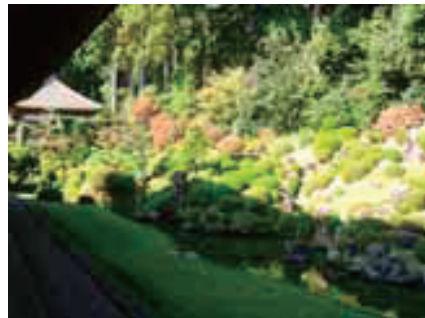
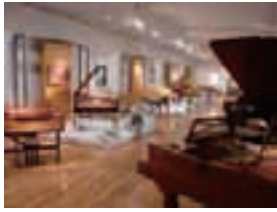
これまで浜松市は、輸送用機器産業、繊維産業、楽器産業の三大産業を中心に、“ものづくりのまち”として発展してきました。

現在においても、世界を舞台に活躍するヤマハ、ホンダ、スズキ、ローランド、浜松ホトニクスなどの企業が立地し、オートバイや軽自動車、ピアノ、電子楽器、光技術などが、浜松から世界に供給されています。



観光のまち「はままつ」

浜松市には、製造工程を間近で見学できるピアノ工場、世界各地の楽器や日本の伝統楽器に触れることができる楽器博物館、ジャパニーズワインと言われる日本酒造りなどを楽しみながら学び・体験することができる施設が数多くあ



ります。こうした施設をネットワークした「産業観光」は、日本国内はもとより海外の観光客からも好評です。

観光スポット

江戸幕府を開いた徳川家康は、29歳から17年間を浜松の地で過ごしました。市内には家康ゆかりの史跡が多く残り、これらをたどる散歩道があります。家康の根城であった浜松城は、1570年に築城され、これを機に地名が浜松と改められました。歴代の城主が江戸幕府の老中に抜擢されていることから、別名出世城とも言われています。春には桜の名所として、多くの花見客で賑わっています。

温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、美しく雄大な景観を誇る浜名湖・館山寺では、マリンスポーツや潮干狩り、各種テーマパークを楽しむことができます。周辺には温泉に入ることができるホテルや旅館も数多くあることから、毎年多くの人々が訪れており、浜名湖・館山寺は、本市の人気観光スポットです。

また、奥浜名湖の引佐町には、幕末の大老、井伊直弼を輩出した井伊家の菩提寺・龍潭寺があります。733年に行基菩薩が開山し、小堀遠州作の庭園、左甚五郎作の龍の彫刻など、数々の重要文化財を所蔵しています。

浜松まつり

毎年5月3日～5日に行われる「浜松まつり」は、江戸時代以前から続く伝統的なまつりであり、初子の誕生を祝って凧を揚げた風習がその発祥とされています。

昼には、中田島砂丘でまつりの象徴である「凧揚げ合戦」が行われます。ラッパの音が鳴り響



き、若衆の汗と掛け声が飛び交う中、大風が遠州灘の潮風を受けて空に舞い上がります。風を操る巧みな技や風糸を絡ませ擦り付けあう“糸切り合戦”は勇壮で迫力満点です。

夜はまつりの舞台が市の中心部に移り、豪華絢爛な御殿屋台の引き回しが始まります。子供たちが奏でるお囃子とまつりの掛け声、そして勇ましい激練りラッパと共に、各町自慢の法被を着た老若男女が街なかを練り歩きます。

ぜひ、浜松に足を運んでいただき、浜松っ子のまつり魂を肌で感じ、一体感を味わってみてはいかがでしょうか。

特産物

浜松市は、海・山・川・湖といった多くの自然に囲まれているため、海の幸から山の幸までバラエティに富んだ食材を楽しむことができます。

「浜松といえばうなぎ」と言われるほど、本市のうなぎは全国的に有名で、明治時代に浜名湖でうなぎの養殖が始まって以来、高い品質と確かな味でうなぎの最高級ブランドとして多くの人に愛されています。うなぎの粉末エキスを

使ったお菓子「うなぎパイ」もおみやげの定番として大人気です。

また、三ヶ日町は日本有数のみかん産地。「三ヶ日みかん」のブランドで出荷されるみかんは、みずみずしい果肉に甘さとほど良い酸味の絶妙なバランスが自慢です。

「一筆啓上 火の用心」

皆さんは「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」という言葉をご存知ですか？

戦国時代、徳川家康が浜松城主だった頃、家康の家臣に「鬼作左」と呼ばれる本多作左衛門重次という武将がいました。

作左衛門が浜松に住んでいた頃、長男「仙千代（お仙）」が誕生しました。その仙千代が3歳になった1575年（天正3年）、徳川家康・織田信長の連合軍が設楽原（現在の愛知県新城市）で武田信玄の子、武田勝頼の騎馬軍団と壮絶な戦いをして勝利しました。これが「長篠の戦い」です。

この戦いで徳川軍は連吾川に沿って陣地を築いていましたが、徳川軍の一員として出陣した作左衛門は、その陣中から妻に「一筆啓上 火

の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」と簡素明瞭な手紙を送ったといわれています。

これが「火の用心」という言葉がこの世に生まれた起源だという説があります。

今では火災予防の合言葉として誰もが耳にしたことがある「火の用心」、この言葉が浜松とこれほど縁があるものだとご存知でしたか？

また、この本多家とゆかりのある坂井市、岡崎市、新城市、取手市、君津市と本市の6市において、3年ごとに「火の用心サミット」を開催し交流を図っています。

浜松市消防局の紹介

- 昭和23年 浜松市消防署を設置する。
- 昭和24年 浜松市消防本部を設置する。
- 平成17年 12市町村の合併に伴い1本部4課7署19出張所の新体制とする。
- 平成19年 政令指定都市移行に伴い、管轄を3方面本部とする。
- 平成21年 組織名称を浜松市消防本部から浜松市消防局と改称し消防航空隊を設置する。

現在は消防局4課、消防署7署、20出張所、条例定数892人の消防体制のなか平成22年中の火災件数は245件、救急件数は30,574件となっています。



マスコットキャラクター「ブルファイター」

このキャラクターは、もともとは消防音楽隊を、より市民に親しんでもらうために考案した



ものでした。

勇敢なブルドックをキャラクターとして、くわえている消防用ホースと管そう、水しぶきは、もちろん消防を連想させるものですが、同時に管楽器もイメージしています。

このイラストは、消防音楽隊の定期演奏会のプログラムに初登場した後、好評だったことから消防年報や少年消防クラブ向けの冊子などで活躍するようになりました。

そして平成16年に本市で開催した第5回全国消防音楽隊フェスティバルを機に、市民に親しまれる消防をアピールするため浜松市消防局のマスコットキャラクターとして正式に設定したものです。

「ブルファイター」という名前は市民公募により決定したもので、ブルドックの「ブル」と、「ファイヤーファイター」を接合した造語です。

現在は広報用シールやクリアファイル等の広報用物品をはじめ、消防車両にも表示しているほか、着ぐるみも作成し、さらに男の子（ブルータ）と女の子（ブルーナ）の二人バージョンになるなど、その存在はますます大きくなっています。

危険物施設

本市には、繊維・楽器・輸送機械を基盤とし発展した産業に関する危険物施設が多く、自動車、オートバイ、船外機などの部品製造の一般取扱所を始め、近年では、光技術・電子技術などの先端産業に関連する危険物施設も設置されています。

また、営業用給油取扱所に占めるセルフスタンドの割合も比較的多いといえます。

危険物製造所等の区分		対象物数	
許可対象施設	製造所	8	
	貯蔵所 (1,371)	屋内貯蔵所	393
		屋外タンク貯蔵所	211
		屋内タンク貯蔵所	48
		地下タンク貯蔵所	425
		簡易タンク貯蔵所	9
		移動タンク貯蔵所	218
		屋外貯蔵所	67
	取扱所 (813)	給油取扱所	490
		販売取扱所	6
		一般取扱所	317
	計		2,192

浜松市制100周年

浜松市は平成23年7月1日に市制100周年を迎えます。

先人の業績や歴史・文化を知る機会とし、市民の地元への誇りや一体感を高め、市民が夢や希望、期待を持ち続けることができる浜松を創造する契機として、浜松の魅力と活力を未来に向けて発信し、次代へとつなげてまいります。

